

一ハルシナイから上流の地名⑨

今号からは、**掲載地図**のトウレブサラ

ある。

二パ(tur ep-saran ip オオウバユリ)の鱗茎・一を入れた一手さげ籠)の伝説の大岩から上流のアイヌ語地名を紹介する。

この伝説の大岩の対岸(右岸)の小さな沢のアイヌ語名が、シネウシナイである。この川は『北海道河川一覧』や、現行の一万五千や五万分一地形図には河川名の記載がない。前号で紹介した、明治三十年製版の『北海道仮製五万分一図』に掲載されたアイヌ語の河川名は、シユ子ウシユナイである。

これも前号で解説したところであるが、右の『北海道仮製五万分一図』は、明治二十四年発行の永田方正著『北海道蝦夷語地名解』に記載のアイヌ語地名の河川名等を地図上に落としたもので

「本川」などとアイヌ語地名の位置を表示している。ただし、地図上の表示がなないので、前号で紹介したように、『北海道仮製五万分一図』では、レークロブイ

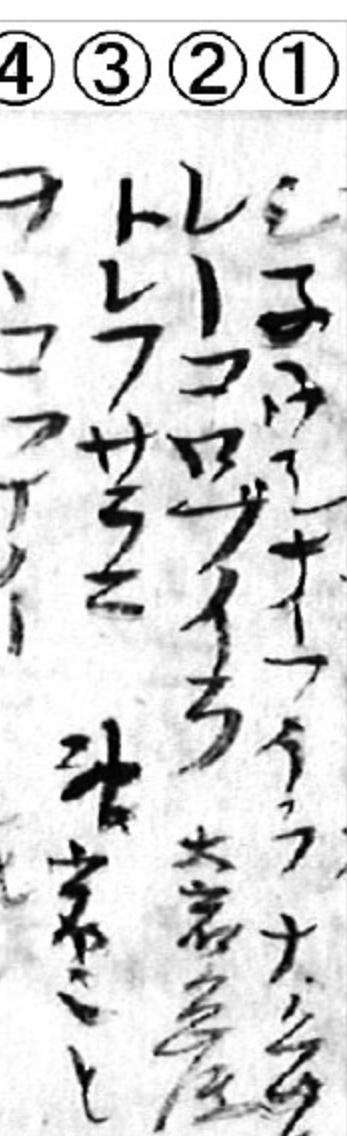
ラ(re-kor-puyra 名前・を持つ・激流→「有名な激流」の意味)が、実際よりも六キロ下流のパラモイ(para-moy

広い・湾)の下流にあるカムイウツカ(ka muiy-ut ka 神・の早瀬)の位置に誤つて記載された例もある。

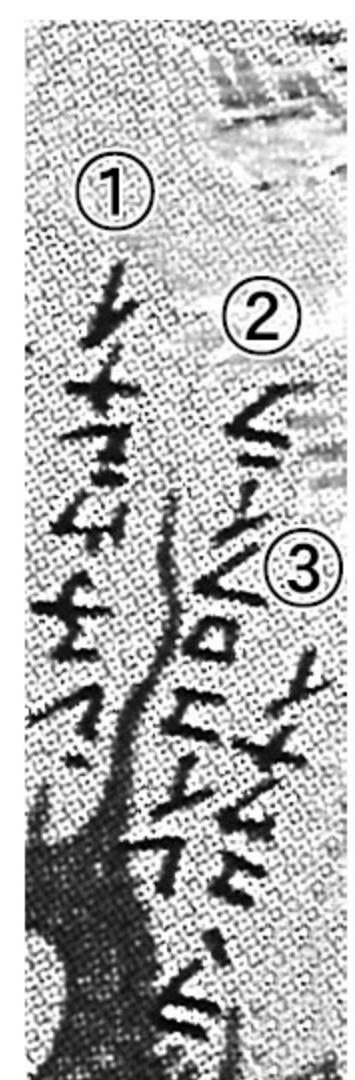
さて、シユ子ウシユナイについて、永田方正は、「本川の右」(註→石狩川の右岸)とした上で、次のように地名解をしている。

「シユ子ウシユナイ(shine-ush-nai 樺火消エタル川)→鱈ヲ捕ルトキ松明(ha shne ush-nai puyira toru lep-sara nai p)

この小さな沢での漁が、永田は鱈漁、知里は鮭漁と聞き、永田は松明が消えた(ush→消える)と訳し、知里は松明が盛んに灯されていると解している。伝承者によつてこのように違つたのである。



①『已第二番』



②松浦図

この川のことは一切触れていない。しかし詳細に調べてみると、聞き書きとしては記録されながら、理由は不明であるが、右の報文日誌には、記述されなかつたことが判明した。

写真①は、この調査に携行した野帳(ライルドノート)の『已第二番』の記録である。ハルシナイで鱈漁をしていた五十二歳のシヒラサが述べた聞き書き部分で、下流から順に、「①シユ子ウシユナイフイラ 大急流引船 ②レイクロブイラ 大岩急流 ③トレフサラニ ④ヲ、コツナイ 左」と書かれている。

写真②は、松浦武四郎が安政六年(一八五九年)に作成した『東西蝦夷山川地理取調図』の部分で、右岸の下流から、

「①シユ子ウシユナイ ②レイクロブイラ ③ヲ、コツナイ」と記載され、左岸には、「トレフサラニ」の記載がある。

松浦武四郎のこれらの記録は、レイクロブイラの位置は誤つてゐるが、シネウシナイやシユ子ウシユナイ。フイラが実在していたことが証明された。

断章 旭川のアイヌ語 地名研究

(99)

高橋 基



安政四年(一八五七年)に、丸木舟に乗つてここを上流に

(アイヌ語地名研究会幹事)
※毎月第1週号に掲載します